



人類はひとつ 世界中に友情の  
橋をかけよう

MANKIND IS ONE- Build Bridges of Friendship  
Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田晋介

出席報告：会員70名 出席58名 出席率82.26% 前回出席率81.43% 修正出席64名 確定出席率91.43%

## 会長報告

中江 亮 君

- 本日の理事会で決定された事項を報告します。
  - 田川地区中学校・高等学校英語弁論大会に賞状、賞品を寄贈することにしました。  
(総額25,000円程度)
  - 地区年次大会選挙人信認状を次の3名に交付することにしました。  
中江亮君・佐藤元伸君・小松広穂君
  - 10月5日(火)の例会を10月1日(金)に繰り上げ開催することにしました。時間は同じです。
- 9月14日(火)に開く第2回クラブ協議会は、クラブの重点的な問題を討議する方式で進めたいので、各委員長さんは各自テーマをご用意下さい。
- 年次大会に会員奥様をできるだけ出席させるようご協力をお願いします。
- 9月5日(日)に開催された庄内分区分I.G.F.について報告します。(ホストクラブ 遊佐R.C.)  
リーダー 浜田幸一P.D.G.  
副リーダー 土門敏雄分区分代理
  - クラブ奉仕部門(出席と会員増強の問題)
    - 新会員のオリエンテーションを早く行うこと。
    - 賜暇を有効に活用すること。
  - 職業奉仕部門(道徳水準と品位の向上)
    - 買う身になって売れ、使う身になって作れ、受ける身になってサービスせよ。
  - 社会奉仕部門(地域性を考える社会奉仕の問題)
    - ゴミ箱を作る奉仕から、ゴミを捨てない啓蒙による社会奉仕の発想の転換。
    - 金よりも一人一人の行動による奉仕のあり方が望ましい。
  - 国際奉仕部門(国際理解と親善について)
    - 東南アジア等近隣諸国との交流を重視する。
    - 向笠R.I.会長を世界の男にしよう。
    - 会員増強、外部拡大、財団等数字で示そう。

## 幹事報告

佐藤元伸君

- 会報到着  
鶴岡西R.C. 鹿児島西R.C. 寒河江R.C.  
藤沢R.C. 東京R.C. 中華民国・苗栗R.C.
- 岐阜北R.C. 認証状伝達式本登録申込のご案内  
57年11月28日(日) 岐阜グランドホテル  
登録料 会員12,000円・同伴10,000円
- 郡山南R.C.  
日本女子工業高等学校インターアクトクラブ認証状伝達式ご案内  
57年9月12日 点鐘 10時 登録料3,000円
- ユネスコ新聞が参っております。

## 5. I.R.会長・向笠広次氏より

・1983年R.I.ロータリー年次大会6月5日～8日カナダ・オンタリオ州のトロントで開かれますが、このトロント大会に関連し米国・カナダ・バミューダ及びプエルトリコ地域の各ロータリークラブは、大会前の週間中アメリカにおけるホームステイを楽しむことができるよう、海外からのロータリアンを招待することが奨励されております。

## 6. 第2回のクラブ協議会開催

日時 9月14日(火)17時 場所 中国飯店  
各委員長はぜひご出席下さい。

## 親睦活動委員会

張 紹淵君

会員誕生 小池繁治君・今野清一君・本山弥君・  
上野三郎君・渡部利夫君  
奥様誕生 三井糸様(徹)・三井順子様(賢二)・  
本山京子様・中江さち子様(哲夫)・  
染野恵美子様

## 出席委員会

佐藤順治君

◎年間皆出席 2年間皆出席 今野清一君  
◎8月100%出席 50名

## S . A . A

石川寿男君

奇数月の第1例会は席順を指定することをお願いしたが、手違いがあり9月は出来なかったので、11に改めて実施することになりますのでご了承願います。

## 年次大会関係

大会幹事 佐藤 忠君

- 参加申込みは現在会員が1,200名、ご婦人を入れて1,300余名となり、当初予定の1,350名にほぼ達する結果となりました。大会予算は3,000万円かかる見込みです。
- 10月5日の例会は10月1日に繰り上げ12時30分から開き、13時から15時までは大会の諸準備に入り、15時から文化会館で式典、部会長を中心にリハーサルを行ないます。
- 会場に絵や書などの「展示コーナー」がありますので、会員の方々のご出品をお願いします。搬入は9月15日までとなっています。
- また9月21日の例会では大会の全体会議を行うことにしております。

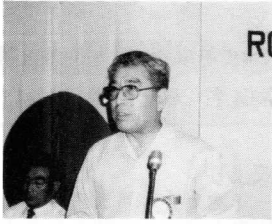
## 会員あいさつ

染野 檀君

去る7月31日母死亡に際しまして、クラブから香伝・弔電をいただき誠にありがとうございました。

庄内空港の建設を推進しましょう

雑 感



エネルギー問題を語る場合に、いつも枕言葉として「石油はもう30年しかありませんよ」だから速やかに原子力を代替エネルギーに切替えなければならぬという。石油の埋蔵量は間違っ

て理解されているようです。確認埋蔵量という考え方は、現在地球には、これだけの石油が確認されているということをお印象づけてしまうのです。技術的な向上によって採算がとれるならば、いくらでも膨れ上がる数字上の側面をもっています。

(現在の技術では油田の回収率30%である) 石油の代わりに原子力だという場合考えなければならぬことは、第一に石油が国民生活のどの分野で使われているかということです。

石油資料月報81年4月号によれば、電力23%、鉱工業23%、自動車21%、家庭業務14%、化学原料12%、その他7%です。

一方、原子力からは電力だけしか出来ないわけですから、石油のほとんどを代替は出来ないこととなります。原子力でガソリン、軽油に代ることは出来ませんから、原子力は石油の代替という標語は大変力の弱いものです。原発は石油を使って原子力を作り発電している。といいますが、大変奇異の感じがするかもしれませんが、ウラン鉱を掘る場合でも、濃縮ウランに精錬する場合でも、燃料棒の加工の場合も、その他原子炉の材料を製造する全過程でも石油が消費されているのです。

今後石油は30年たっても潤渇しないでしょうが、それでは、採れば採れるほどいいのかということではありません。石油の供給不安と石油汚染の拡大は100年位は続くことであろうといわれています。石油がなければ、食糧も水も断たれたと同じような生活ではないかと思えます。と同時に今後も石油依存の石油文明が長く続くことと思えます。

ところで石油文化7月号にこんな記事がありました。私には理解の出来ない点が多々ありましたので皆様の御知恵をお借りしたいと思いましたので申し上げます。

榎田敦氏(理化学研究所所長・物理学者)「石油の節約は石油が無くなるからとの理由ではない。石油を消費して地球の表面をかきまわしている汚染や自然破壊をなくすることで、又石油による悪質な廃物を捨てる場所をもこの地球からなくすることである」即ち、石油の文明から早く脱しきらねばならない。その為には石油消費水準を1960年頃に戻すべきである。

この石油文明は「はこぶ」ことによって成立しており、運搬は生産と消費を結んでおり、ところが汚染と破壊はこの運搬によって引き起されている。アメリカのトウモロコシを買って豚に食べさせ、畜産公害を、アメリカは土壌破壊。途中の海は油で汚

る。これ等の汚染を回避するには、この物を運ばないことである。特に遠距離輸送、例えば東京―大阪―東京と錯綜した輸送はしない。不必要な輸送はしないこと。この輸送を調整することによって、最終消費は当然減少することになりますが、この最終消費は昔も今もそんなに変化はない。昔とくらべて何が増えたかという、中間物が増えた結果汚染が多くなった。これをなるべく抑えて経済単価を小さくすることであっても、経済破壊でもありません。現在は車の洪水であるが、1960年頃には自動車の姿はそう見えなかったし、又私達は決してひもじい思いをしたわけでもありません。国民経済の運ぶ距離が短かくなったら、石油製品が売れなくなるが、その石油が売れなくなった余力を石油以外の方向に向けることです。

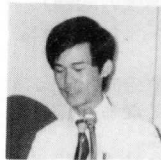
では、その輸送距離の短縮を図るには、その解決は政治だけでは頼れない問題だと思えます。結局、我々自身が変わっていくということを通じてしか解決出来ないものです。

現在、一億総運転者時代ですから、もう車を買って替えない、車を使わない方法を考えよう。農家の場合なら専作農家をやめて自分の家で食べるものは自分で作ろう。そして出稼ぎが減るように努めること。この方向を国民自身が考えることです。

石油を備蓄することや、節約するだけでなく、石油なしで過せる生活へ切り換えることです。石油がなければ食糧も水も手に入らないような生活から、速やかに足を洗う必要があると思う。

米 山 奨 学 金

山形大・農芸化学専攻 廖 登 稔 君



長い間大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。留学生として日本に来た頃は言葉も通じないし、食生活も違うので、毎日毎日が容易ではありませんでした。故郷を遠く夢見てはホームシックになる事も度々ありました。吹雪と戦い厳しい寒さに耐えて、やっと山形大学での留学生活も9月一杯で終る事になりました。

無事ここまでこれたのも、皆様のご指導と御厚情のおかげであり、本当に有難うございました。

今後どうい道を進むかは未定ですが、皆様のご恩を忘れず、今まで勉強してきた精神を生かして立派に進んでいきたいと思えます。

長い間本当に有難うございました。

ス マ イ ル

石川寿男君 S.A.A.として例会席順に手違いあったので。

張 紹淵君 I.G.F.に大変気分よく参加出来たので。

財 団 へ の 寄 付 金

9月7日(火)の例会の寄附総額は16,655円でした。ありがとうございました。

ビ ジ タ ー

鶴岡西R.C. 菅原年雄君、本間文一君、井上彬君 (今週の担当者 今野清一)